平成 22 年度　事務事業評価シート(平成 21 年度実施事業)

整理番号	土み07

事務事業名	都市緑化・公園美化表彰事業	予算科目	会計	1	一　般　会　計
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち	款	8 土木費
	施策(節)	10	公園・緑地・緑化	項	4 都市計画費
	施策の方向	(1)	緑地の保全と緑化の推進	目	3 公園費
関連する計画等				事業	3 緑化推進（グリーンフェスタ）
				作成部署	土木部みどり公園
事業の目的	対象（誰を・何を）			連絡先	072 - 958 - 1111　内線　2420

対象（誰を・何を）

長期にわたり、都市緑化・公園美化に功績のあった市民または民間団体

意図（どういう状態にしたいのか）

個人または団体の努力をたたえ、市民活動の模範として表彰する。

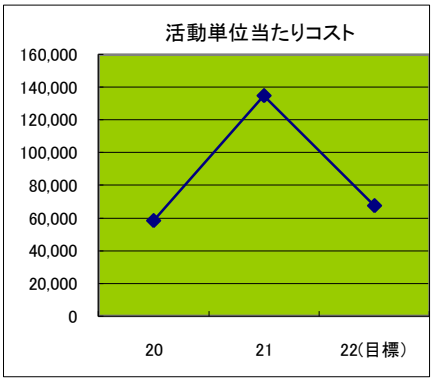
事業の内容

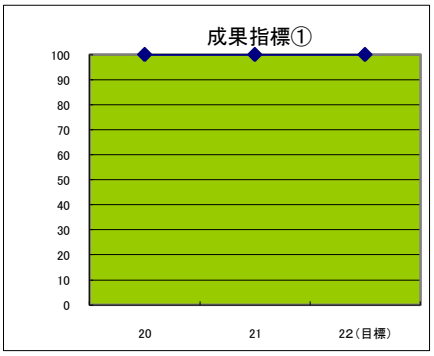
区長会に推薦を依頼し、みどりの推進協議会にて審議し決定のうえ、市民表彰式（文化の日）で表彰と記念品を授与する。推薦基準として都市緑化表彰は、都市公園事業や地域の緑化推進に顕著な功績のあった者、公園美化表彰においては５年以上継続して公園の保全又は美化について顕著な貢献のあった者としている。

根拠法令等	羽曳野市都市緑化及び都市公園等の保全美化における功労者の表彰実施要領
事業開始時期	☐ 昭和　☑ 平成　5　年開始　☐ 明確にはわからない　☐ 市制施行（昭和34年）以前より行っている　終了年度　平成　年度
事業開始時からの状況変化	
市民や議会の要望	
実施手法	☑ 直営　☐ 一部委託　☐ 全部委託　☐ 補助金・助成金　☐ その他（　）
委託先	☐ 市外郭団体委託　名称（　）　☐ 民間委託　☐ その他　委託内容

区分		20年度（実績）	21年度（実績）	22年度（見込み）
事業費【1】	(千円)	0	15	15
人件費【2】	(千円)	525	525	525
職員数	正規職員	0.07 人	0.07 人	0.07 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
超過勤務(参考)	(時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費（【1】＋【2】）【A】	(千円)	525	540	540
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他（手数料・使用料等） (千円)			
	一般財源 (千円)	525	540	540

活動指標(事業の活動実績)【B】	単位	20年度	21年度	22年度(目標)
① 表彰者数	人	9	4	8
②				
③				
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)		58,333 円	135,000 円	67,500 円
市民１人当たりコスト(【A】／人口)		4 円	5 円	5 円





成果指標（事業目的の達成度を測る指標）

	指標名	単位	指標設定の考え方		平成20年度	平成21年度	達成率(%)	平成22年度
①	適正表彰率 (式)	%	表彰に至るまでの一連の事務が適正に行われているかの割合	目標	100	100	100.0%	100
				実績	100	100		
②	(式)			目標			達成率(%)	
				実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	市民活動の模範として表彰することにより住民意識向上を図る必要がある。
								○	○		

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☑	☐	☐	街づくりに貢献し、地域活動への意欲が一層強まるきっかけとなるため妥当な事業である。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☑	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☑	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☑	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☑	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☑	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☑	☐	
	効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）	☑	☐	☐	推薦者の収集から決定に至る流れは最善と思われる。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☑	
		人員を削減する余地がない	☑	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☑	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☑	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☑	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない	☑	☐	☐	
	有効性	上位の施策（目的）が明確である	☑	☐	☐	市民の緑化や公園美化に対する意識を高めるためには有効である。また、地域への波及効果が期待できる。
		上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である	☑	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☑	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☑	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☑	☐	☐	表彰は、羽曳野市みどりの推進協議会と協力して進めている。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☑	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☑	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☑	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☑	☐	☐	推薦から表彰に至るまで適正に実施している。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☑	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☑	☐	☐	

担当部局評価

総合評価

☐ 拡大・充実　☑ 現状維持　☐ 方法改善　☐ 民営化・民間委託　☐ 縮小　☐ 廃止・休止　☐ 完了

評価の理由

都市緑化・公園美化功労者に対し、労をねぎらう顕彰制度は必要である。

今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）

今後も事業を維持し、活動の模範として広報などを通してPR活動を強める。

行革本部評価	総合評価	評価理由・意見
	☐ 拡大・充実　☐ 現状維持　☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託　☐ 縮小　☐ 廃止・休止　☐ 完了	